

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170102541
法人名	(株)グループホーム
事業所名	グループホーム六条の杜
訪問調査日	平成20年9月29日
評価確定日	平成20年11月5日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102541		
法人名	(株)グループホーム		
事業所名	グループホーム六条の杜		
所在地 (電話番号)	〒500-8355 岐阜市六条片田1丁目21-6 (電 話) 058-277-5733		
評価機関名	NPO法人 ゑふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(20年9月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 10.8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 1階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	18,500 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(9 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.2 歳	最低 56 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科、千手堂病院、めぐみ歯科、高橋整形
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大通りから入っているところに位置するグループホームである。回りはほとんど住宅であり、近くに喫茶店や畑があり、のどかな風景が広がっている。天気の良い日は散歩に行ったり喫茶店に行ったりと、地域と触れ合いながら日々を過ごしている。職員は利用者に対し、視線を同じにして、笑顔と褒め言葉を心がけ、尊厳を大切にしながらケアを行っている。また、医療体制が充実しており、地域の内科・整形外科・歯科と連携を取っている。口腔ケアは、歯科医師が月1回、歯科衛生士が月4回訪問して行っており、利用者の飲み込みがよくなる、言葉の出が良くなるなど成果が現れている。 終末に対する取り組みを早くから行い、家族や利用者に対する意思確認や随時の医師との相談を行いながら取り組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点に対し、地域の自治会長や民生委員に働きかけて運営推進会議の開催を実現したり、介護計画を家族に確認してもらい、家族の意向や状況を介護計画に反映させるといった取り組みがみられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に関しては、ケアマネージャー(看護師)と施設長が中心となって行われており、一般の職員が評価には携わっていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ようやく地域の自治会長や民生委員、家族代表に参加してもらう形の運営推進会議が開催され、地域の協力を得られるきっかけができた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	通常は面会の折に家族の意見や要望を聞き取るようにしているが、面会の機会が少ない家族に対しては、依頼事項を電話連絡する際などを活用して、近況を報告したり、要望を聞き取るようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩を通して顔見知りになった近所の人と挨拶を交わす程度の関係はできているが、地域の行事等に参加し、交流するといった関係までは構築されていない。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あ・い・う・え・お」(愛情、一期一会、敬い、笑顔、おおらかに)の憲章がつけられている。	○	地域密着型のサービスを提供する事業所として、認知症の人が地域で暮らすためには何が必要かということ話し合い、理念の中に盛り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具現化するための意識や行動について、毎月具体的な目標を掲げ、実践するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として受け入れられるよう、自治会に加入するといった取り組みは行われているが、地域の行事に利用者が参加するといった段階には至っていない。	○	今後は運営推進会議を積極的に活用して、地域住民と入居者との交流や災害時の支援体制づくりができるよう努めて欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はケアマネージャー(看護師)と施設長が中心になって行われており、一般の職員は評価に携わっていない。	○	評価の各過程に全職員が参加して取り組み、ホームの質の確保・向上に活かしていくことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長と民生委員に働きかけて、ようやく事業所単独での第1回の運営推進会議が開催された。	○	事業所が地域から孤立することの無いよう、また利用者一人ひとりが地域とのつながりの中で暮らせるよう、運営推進会議を積極的に活用していくことが望まれる。

グループホーム 六条の杜

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の被保護者に関することや、提出書類等に関して気軽に相談できる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通常は面会時に利用者の健康状態や生活の様子について報告するようにしており、面会の少ない家族にも依頼事項を電話する機会等を活用して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話の折に要望等を聞き取るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間で利用者が行き来することもあり、職員はそれぞれのユニットの利用者の状況にある程度把握している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修(介護技術や医療の知識に関する研修)が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、近隣の複数のグループホームの管理者やケアマネージャーと、お互いに悩みを打ち明け合ったり、アドバイスや情報提供のやり取りをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の雰囲気を知ってもらうために、事前に見学ができるようになっている。また、入居前のアセスメントや家族とのやり取りの中から、利用者の生活歴や性格、好みなどを把握し、その人に添ったケアができるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者を敬うという姿勢を職員が持っており、日頃から利用者に学ぶ場面や、得意分野で力を発揮してもらう場面を作るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に「食べたいもの」や「したいこと」を尋ねるよう心がけており、実現可能なことはなるべく取り入れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や職員の気づきを介護計画に反映させたり、職員が対応に苦慮していることを相談するために、ケアマネージャーを交えたミーティングが随時開かれている。また、介護計画を更新する際は、カンファレンスを開いて、職員が意見やアイデアを出し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を職員がいつも確認し、必要な時はミーティングを行い介護計画の変更を行っている。見直しがある場合で半年、無ければ1年で見直しを行っている。家族に対しては、面会の際介護計画を見せ、印をもらっているが、家族の希望を聞くことはあまり無い。	○	介護計画は、本人・家族・関係者が話し合い、気づきや意見を反映させながら介護計画を変更することが望まれる。また、安定している場合でも、3ヶ月程度で介護計画を見直すことが望まれる。

グループホーム 六条の杜

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の誕生日には、職員と1対1で好きなところに食事に行ったり、天気の良い日には散歩ついでに近くの喫茶店によるなど、利用者の要望に応じ支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院と医院の医師が月2回往診に来るほか、整形の医師がリハビリや注射に訪れたり、歯科医師の月に1度の往診や訪問マッサージなどがあり、医療機関側からホームへの手厚い往診・訪問がある。また提携病院から、車で利用者を迎えに来てくれ受診が出来、診療に対しての報告もある。その他の医療機関には有料で通院同行の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてや延命治療に対しての希望等、終末に対する意思確認を早い段階で行っている。家族に対しては随時説明を行うほか、医師の所に家族と職員が一緒に出向き、説明を受けている。重度化した時は、訪問看護師が毎日訪問する体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して、丁寧な言葉遣いで話しかけており、同じ目線で接するよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間がかかる利用者には、2時間かけて食べてもらうこともある。また、せかしたりせず、なるべく自力で出来るよう励ますような言葉掛けをしている。		

グループホーム 六条の杜

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は前もって決めているが、利用者の希望が入って変わることもある。いもの皮むきを一緒にしたり味噌汁の味見、豆の皮むきなど手伝ってもらい一緒に行っている。食事後には陶器の茶碗を拭くなどの片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回だが、入りたい人には毎日入ってもらうようにしている。夏にもゆっくり浴槽に入り、入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	クリーニングの仕事をしていた人が、洗濯物をきれいにたたんだり、習字の先生だった利用者が習字を書いたり、碁や将棋が得意な利用者に教えてもらったりなど、生活歴を活かした役割がある。また、運動会の玉入れ箱づくり、貼り絵、体操など、楽しみながらリハビリをする支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じた対応はあまりできないが、天気の良い日は散歩に行ったり喫茶店に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの真ん中に玄関があり、ユニット間を利用者が行き来しているが、日中玄関に鍵はかけていない。利用者が玄関から外に出ようとする際は、職員が付き添い、言葉かけを行いながら帰るよう促している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練が行なわれており、ホームの両隣の建物の人には常に声掛けを行っている。ホームの建物が災害時には地域の一時避難所になる可能性があるため、今後水や食料2日分の備蓄、懐中電灯等常備するよう計画している。		

グループホーム 六条の杜

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量とも毎日チェックされており、食事については毎日カロリー計算を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は清潔で明るく広々しており、和室・ソファなど休憩する場所もいくつか設けられていて居心地良い空間となっている。利用者が書いた習字や利用者作成ののれん・クスマ・貼り絵や写真等などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には持ち込みの箆箆やテレビ・写真・洗濯物干しなど、利用者の使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。		